

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)ABホテル犬山

計画上の配慮事項	
総合	犬山駅の南東側、住宅街と田園地帯の境に立地するビジネスホテルである。周辺の新しいまちづくりを意識し、今後の周辺整備の事例となる建築物を目指す。建築物単体では、省エネ設計値が適合基準を満たす省エネルギー性能を目指し、施工性や維持管理を意識したコストバランスを実現できる、快適な室内環境の整備を行う計画とする。
Q1 室内環境	ホテル客室内の居住性を考慮し、遮音性確保や採光による昼光率向上を実現した。
Q2 サービス性能	客室利用客のみでなく、建物維持管理作業従事者への配慮も行っている。標準的な維持管理仕様ではあるが、配管仕様を高品質とし、継続的なメンテナンスしやすさを考慮した設計とした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内植樹など緑地計画や景観に関しては、建物配置計画による制約の中で、量の確保が十分といえない。一方、災害時対策を考慮して、建物高を生かし発電機設置や排熱放出等を建築物の高い位置からとなるよう努めた。
LR1 エネルギー	建築外皮への熱負荷を抑制する建築仕様を徹底した。また、各客室での1次エネルギー消費量を抑えることに寄与する設備選定に努めた。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない建築材料、再利用可能な部材、リサイクル材などを積極的に採用した。
LR3 敷地外環境	周辺は住宅街と田園地帯が広がる環境である。開放的なエントランスを設置し、周辺住民や地域に開けた建物を目指した。用途上、廃棄物の保管スペースや駐車場の台数確保など、建物利用者や、日常の迅速な顧客対応に配慮した動線を検討した。
その他	